

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	佐賀県地域づくりネットワーク	大湯 章吉	能登乃國 ゆずるぎ塾 (総務省地域力創造アドバイザー)	地方創生は地縁型と志縁型の協働で創る	平成27年6月6日
	講演内容			研修成果	
	1. 今、なぜ地域づくりなのか 2. 日本の人口と構成はどう変わるのか 3. 地縁団体、志縁団体の課題は何か 4. 地縁団体と志縁団体の協働事例紹介 5. インバウンドによる地方再生 6. 団体組織の課題の治療法			参加者35名  「地域は地縁型と志縁型の協働で創る」について、ご講演いただき、地縁型と志縁型の協働のためのノウハウや協働事例について説明いただきました。また、地域づくり団体の組織課題を人の成長期に応じた病気に例え、ユーモアあふれる解説で治療法について、分かりやすくお話いただいた。  県内の団体が、これからも持続的に活動を続けていく為の貴重なアイデアをいただき、佐賀県のまちづくり活動の機能強化に活かしていけると思われる。 今後、地縁団体と志縁団体との新たな融合を期待したい。	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	群馬県地域づくり協議会	米山 けい子	NPO法人 フードバンク 山梨 理事長	子どもの貧困と食のセーフティネット事業	平成27年7月2日
	講演内容			研修成果	
	1フードバンクとは フードバンクとは安全に食べられるのに、箱が壊れたり、印字が薄くなったりして、販売できない食品を企業などから寄贈してもらい必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動。 2フードバンク山梨の取組 当初は施設への食品配布が主な活動だったが、生活困窮者の存在を知り、問題に向き合う。食糧支援を実施する中で、それだけでは解決できない問題を抱える方々を知り、始まったのがフードバンクファーム(就労準備支援事業)。1年の活動を経て、さらに社会復帰までの出口強化のために生活・就労相談事業を開始。 フードバンク活動の推進は、市民、企業、行政との関係性を広げ、地域全体で困っている人を支える環境をつくる。フードバンク活動は、地域づくりそのもの。 3子どもの貧困 子どもがいる世帯のうち、5割が一人親世帯であり、周りに援助者がおらず、仕事をしながら子どもを養育している事が多い。また、貧困が子どもに及ぼす影響は、精神・経済面・身体面と多岐にわたる。 4フードバンク子ども支援 全国初の試みとして、8月の毎週、子どものいる貧困世帯に向けて集中的に食品を配送し、子どもたちの健やかな成長を助けることを目的としている。			参加者:80人  フードバンク活動の推進を通して、市民、企業、行政との関係性を広げ、地域全体で困っている人を支える環境をつくる手法は、地域づくりの一つの手法として参考になった。 アンケートを実施したところ、参加者は、「群馬県でも子どもの貧困はある。NPOに呼びかけて協働できないかと思う」「フードバンク山梨に敬意を表する」など、フードバンク山梨の活動に感銘を受けていた。それぞれの活動に対するヒントを得たのと同時に、改めて地域づくりへの熱意を掻き立てられた様子だった。 本研修で学んだことを参加者は各地域・団体へ持ち帰り、検討・実践することで、より活発な地域づくり活動の展開が期待できると考えている。	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	地域づくりネットワーク長野県協議会	須永 浩一	ヤフー株式会社 復興支援室	やまびこフォーラム2015 in 大北 ファンを創出する地域づくり～生まれ変わり愛される商店街へ	平成27年11月21日
	講演内容			研修成果	
<p>・Yahoo!JAPANが、2011年3月に起きた東日本大震災の被災地支援で行った、石巻での取り組みについて講演いただいた。「復興デパートメント」プロジェクトを立ち上げ、全国のお客様と東北のお店をひとつひとつ繋げ、被災地から少しでも多くのお店・商品、そして生産者を紹介する取り組み。また、全国から約3,500人の出走者が参加した自転車イベント「ツール・ド・東北」を実施し、地元の人たちがボランティアで参加することで、地元商店に立ち寄りてもらい、出会いを一日限りのものではなく長く続く「縁」となるような取り組みについて紹介がありました。</p> <p>・大町市内の商店街でのフィールドワークを通じて、各参加者が愛される商店街になるために何が必要なのかを、見て・歩いて・触れながら探求し、全体会でフィールドワークでの気づき、アイデアの共有をテーマごと行った。</p>				<p>参加者:130人</p> <p>・復興支援のための具体的な事例の紹介により、各参加者は、改めて地方には、チャレンジしがいのある環境、イノベーションが生まれる素地・可能性があり、もともとある魅力、埋もれている可能性・強みを生かすことで、「これからの再生は地方から」ということを学ぶことができた。</p> <p>・フィールドワークを通じて、地元の人が気づかない商店街の魅力を再発見するとともに、今後、愛される商店街に向けて、課題解決の方法を全体で考えるいい機会となった。</p> <p>・県内の地域づくり団体・行政関係者等が一同に会し、普段あまり接点のない参加者同士が同じテーマに取り組むことで、情報交換や交流の場とすることができた。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	愛知県地域づくり団体交流協議会	馬袋 真紀	朝来市役所 上席主査	「自分たちのまち自分たちで創る」 ～朝来市の地域協働のまちづくり～	平成28年1月29日
	講演内容			研修成果	
<p>馬袋氏は地域自治協議会の立ち上げ、自治基本条例の策定に携わり、さらにその運営や一市民として、地域活動を行ってきた経験をもとに、前半では朝来市の地域自治の仕組みと現在の課題等、後半では地域づくり活動の実践に重点を置いてご講演いただいた。</p> <p>前半の地域自治協議会の立ち上げ経験の話の中では、元々朝来市では地域自治が非常に充実していたという歴史的背景や、高齢化により自治会単位の活動が難しくなってきたこと、今後の目標である地域力の向上・地域リーダーの育成などについてお話いただいた。</p> <p>また、後半の実践の話では、実際にこれまで行ってきた馬袋氏の経験に基づき、市役所職員ならではの地域活動の関わり方、地域づくりにおいて重要なポイントについてお話いただいた。</p>				<p>参加者:119人</p> <p>地域自治に携わる行政関係者や地域づくり関係者が中心に参加いただいたため、住民と協働で地域づくりを行ってきた馬袋氏の話に熱心に耳を傾けていた。</p> <p>参加者のアンケート結果からも、「すばらしい講演だった」「地域づくりのヒントや大きな気づきがあった」という声があり、参加者に新たな発見やヒントを与え、改めて各々の活動を見つめ直していただくきっかけとなった。</p> <p>また、自信の職場や地域に帰って実際に実行していただくことで、愛知県全体の地域力向上に繋がる。</p>	